

平成二十七年 度

国 語

(文学科 日本語日本文学専攻)

9:30
～
11:00

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、問題冊子、解答用紙に手を触れてはいけません。
- 2 この問題冊子は8ページで、解答用紙は2枚あります。
- 3 試験開始の合図があったら、まずページ数、枚数を確認し(足りない場合は、手を挙げて監督者に知らせること)、全部の解答用紙に受験番号を記入してください。
- 4 試験中に、印刷の不鮮明な箇所やページの脱落などに気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 5 解答は、解答用紙の所定の欄に記入してください。
- 6 この問題冊子にある余白のページは、下書きなどに利用してかまいません。
- 7 試験終了後、問題冊子と受験票は持ち帰ってください。

一

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

【省略】

【省略】

【省略】

(中野敏男『詩歌と戦争 白秋と民衆、総力戦への「道」』
二〇二二年、NHK出版、50～54ページより作成)

注 西条八十 …… 明治から昭和まで活動した詩人。童謡作家。作詞家。

問一 ——部①～⑤の片仮名は漢字に、漢字は平仮名に直しなさい。

問二 ——部a「モチーフ」b「ベース」c「ポイント」を同じ意味を表す漢字二字の熟語で書き換えなさい。

問三 ——部ア「ようやく」イ「とりわけ」ウ「異を唱えた」エ「かえって」オ「なにも」を別の言葉で言い換えなさい。

問四 本文において、——部A「この新しい創作領域」と対比されているものは何か、その名前を抜き出さなさい。

問五 ——部B「それ」が指し示すものを本文から抜き出さなさい。

問六 ——部C「子供に与えるには表現が「残虐だ」とする強い批判」に対する白秋の反論についてわかりやすく説明しなさい。

問七 ——部D「この童心主義」について、(1)どのような主義か簡潔に説明しなさい。また、(2)「この童心主義」の問題点について端的に説明している部分を本文から五十字程度で探し、その最初と最後の五文字を抜き出さなさい。

問八 ——部E「わたくし自身が童謡を作るについても、別に今更児童の心に立ち還る必要も無い」と白秋が考えた理由を簡潔に説明しなさい。

問九 北原白秋は日本近代の詩人ですが、彼が著した詩集の代表的な作品名を一つ答えなさい。ただし、本文中に書かれた詩集は除きます。

二

次の文章は『蜻蛉日記』中巻の、作者の息子道綱が、賭弓（宮中での弓射の試合）に後（後手組）として出場することになった時に夫兼家が道綱のために熱心に準備をし、当日は道綱の活躍で引き分けに持ち込めたという記事である。これを読んで、後の問いに答えなさい。

三月十日のほどに、内裏の賭弓のことありて、①いみじくいとなむなり。幼き人、後の方にとられて出^いでにたり。「方勝つものならば、その方の舞^{注1}もすべし」とあれば、このごろはよろづ忘れて、このことを急ぐ。舞ならずとて、日々に楽^{がく}をし②ののしる。

出居^{いであ}注2につきて、賭物とりてまかであり。いと③ゆゆしとぞうち見る。

十日の日になりぬ。今日ぞここにて試楽^{しらく}注3のやうなることとする。舞の師、多好茂^{おほのよしもち}注4、女房よりあまたの物かづく。男方^{おとこがた}もありとあるかぎり脱ぐ。「殿は御物忌なり」とてをのこどもはさながら来たり。事果てがたなる夕暮^{ゆふぐれ}に、好茂、胡蝶楽^{こてふらく}注5舞ひて出で来たるに、黄なる単衣脱ぎてかづけたる人あり。折にあひたるここちす。また十二日、「後の方人^{かたびと}さながら集まりて舞はすべし。ここには弓場^{ゆみば}なくてア悪しかりぬべし」とてかしこののしる。「殿上人^{てんじやうびと}数を多くつくして集まりて、好茂埋^{うめ}もれてなむ」と聞く。我は「いかにいかに」と④うしろめたく思ふに、夜更けて、送り人あまたなどして物したり。

〔中略〕

その日になりて、まだしきにもして注6、舞の装束のことなど、人いと多く集まりて、し騒ぎ、出だし立てて、また弓のことを念ずるに、かねてより言ふやう、「後はささとの負けもぞ。射手いとあやしうとりたり」など言ふに、舞をかひなくやなしてむ、いかならむいかならむと思ふに夜に入りぬ。月いとあかければ、格子なども下ろさ^bで、念じ思ふほどに、これかれはしり来つつ、まづこの物語をす。「いくつなむ射つる」「敵^{かたき}には右近衛中将^{うこんゑのちゆうじやう}注7なむある」「おほなおほな射伏せられぬ注8」とて、ささとの心^{こゝろ}注9に、うれしうかなしきことものに似ず。「負けものときだめし方のこの矢どもにかかりてなん、持になりぬる注10」と、また告げおこする人もあり。持になりなければまづ陵王^{りやうわう}注11舞ひけり。それも同じほどの童にて、我が甥^{せむせ}なり。馴らしつるほど、ここにて見、かしこにて見など、⑤かたみにしつ。されば次に舞ひて、おぼえによりてにや、御衣^{おんぞ}注12賜りたり。内裏よりはやがて車のしりに陵王も乗せてまか^cでられたり。ありつるやう語り、わが面^{おもて}をおこしつること、上達部^{かんだちめ}どものみな泣きらうたがりつることなど、かへすがへすも泣く泣く語らる。

（『蜻蛉日記』中巻より作成）

注1 その方の舞……試合の後に勝った方が舞う舞。道綱は納蘇利を舞う予定だった。

注2 出居……練習場。

注3 試楽……予行練習。

注 4 多好茂 …… 多氏は代々舞樂を専門とする家。好茂も舞の名手だった。

注 5 胡蝶樂 …… 舞の名。蝶が飛ぶさまを模したもの。通常は童四人が舞う。

注 6 まだしきにもものして …… 兼家は早朝から見えて。

注 7 敵には右近衛中将 …… 敵は対戦相手。醍醐天皇の孫、源忠清か。

注 8 おほなおほな射伏せられぬ …… 懸命になって打ち負かしておしまいになった。

注 9 ささとの心 …… なんだかんだと気にしていた心。

注 10 この矢どもにかかりてなん、持になりぬる …… 道綱の射た矢に助けられて引き分けとなった。

注 11 陵王 …… 舞の名。納蘇利とあわせて舞うことが多い。相手方の少年が舞った。

注 12 御衣 …… 天皇の衣。御衣をほうびとして与えられるのは、大変な名譽。

問一 — 部①く⑤の語の意味を書きなさい。

問二 — 部 a く c の「で」を例にならって文法的に説明しなさい。

例 みごとで 形容動詞「みごとだ」の連用形活用語尾

問三 — 部ア「悪しかりぬべし」を例にならって品詞分解しなさい。

例 副詞 力行変格活用動詞「来」連用形 完了の助動詞「たり」終止形

さながら 来 たり

問四 — 部イ「埋もれてなむ」は結びの語が省略されています。考えられる結びの語を答えなさい。

問五 — 部ウ「舞をかひなくやなしてむ、いかならむいかならむ」を現代語に訳しなさい。

問六 — 部エ「ありつるやう語り」とありますが、「ありつるやう」の内容を、本文の「中

略」以降から現代語で簡潔にまとめなさい。

三

次の文章は君主の心構えをまとめた『呂氏春秋』から抜き出したものです。これを読んで、後の問いに答えなさい。

三月嬰兒、軒冕在_レ前、弗_レ知_レ欲_レ也、斧鉞在_レ後、

弗_レ知_レ惡_レ也、慈母之愛論_ニ焉、誠_レ也。故誠_ニ有_レ誠_ニ乃

合_ニ於_レ情_ニ、精_ニ有_レ精_ニ乃_レ通_ニ於_レ天_ニ。乃_レ通_ニ於_レ天_ニ、水木石之

性、皆_レ可_レ動_レ也。又況_於有_ニ血氣_ニ者_上乎。故凡_ニ說_ニ与_レ治

之_レ務_ニ、莫_レ若_レ誠_ニ。

〔『呂氏春秋』より〕

注 三月嬰兒……生後三か月の赤ちゃん。

軒冕……軒は貴人の車、冕は貴人の冠。

斧鉞……おのとまさかり。極刑に用いる道具。

有……「又」に同じ。

精……至誠。

説……説得すること。

問一 部「弗」「乃」の送り仮名を含めた読みをそれぞれ記しなさい（現代仮名遣いでもよい）。

なお、文章中には「弗」「乃」が複数個ありますが、どれも読み方は同じです。

問二 部Aを現代日本語に訳しなさい。

問三 部Bを漢字かな交じりの書き下し文にしなさい（現代仮名遣いでもよい）。

問四 部Cは何をするときにどうすればいいと主張しているのか、文章全体を踏まえてわかりやすく説明しなさい。

